

研究課題名：急性胆のう炎における経乳頭的胆嚢ドレナージ（endoscopic transpapillary gallbladder drainage: ETGBD）の手技的成功をもたらす因子の検討

所属(診療科)：消化器内科

研究責任者(職名)：吉原努

研究期間：2024年12月の倫理審査承認後より学会、学術誌の公開まで

研究目的と意義：急性胆嚢炎における治療は以前より、皮膚から肝臓、胆嚢に針を刺して胆嚢の内容物を持続的に吸引（ドレナージ）することが多くあり、現在も実施しています。それとともに内視鏡を用いて、胆嚢から十二指腸にステントを留置する経乳頭的胆嚢ドレナージ（endoscopic transpapillary gallbladder drainage : ETGBD）と呼ばれる治療も実施されてきました。そのメリットとしては、針を刺すことがないため、抗血小板薬や抗凝固薬を投与されていても実施可能で、体の外にチューブが出ないため患者さんにとっては負担が少ないことです。しかしながら成功率は必ずしも高いとはいえません。本研究は ETGBD の成功を収めるための特徴を知るためにおこなわれます。

研究内容：

●対象となる患者さん：2022年4月1日から2024年12月31日までに急性胆嚢炎の診断でETGBDを施行され、ステントを留置された患者さん。

●利用する情報/資料：

年齢、性別、身長体重、投薬内容、CTやレントゲン画像などの所見

●研究方法：

本研究は横須賀市立うわまち病院消化器内科医による単施設での研究です。本研究で収集される情報には個人を特定できるような内容は含まれていません。

問い合わせ先：

【研究担当者】

氏名：吉原 努

住所：〒238-8567 神奈川県横須賀市上町 2-36

電話：046-823-2630 FAX：046-827-1305

受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）